

18
FOR ADULT

愛依ちゃんの
アルバイト





キーン
コーン

「やつと授業終わった〜♡」

「はあ〜マジで授業たるとい〜♡
このあとカラオケ行こ♡」

「ごめんウチ今日
バイトだから無理だわ」

「バイトつて援交っしょよW」

「お金を稼ぐなら
肉体労働が一番っしょよW」

「肉体労働言うなしW
じゃあまた明日ね〜」

「ごめんね〜」



気持ちいいことしてたくさん
お金がもらえるなんて最高〜♡

「オジサンもしかして
キンチョーしてる?W」

「こういうことするのは
初めてで慣れてなくてね」

「へ〜オジサンって
援交軍団なんだ〜W」

「良いチンポしてるんだから
もっと堂々としなよW」

「今からウチがバッキバキに
勃起させてあげるからさ♡」



ポッポッポッ

「今日はオジサンの金玉がカラッポになるまで気持ちよくしてあげるからね♡」

「んっ…ふ…フ…フ…」

「オジサンの鼻息荒すぎてマシでウケるんだけどW」

「だってJKとキスしてると思ったらつい…」

「オジサンかわいい♡W
ほらもっと口開けて♡」

レレ

レレ

「んっ…くちゅ…
ぬぶぶちゅう〜♡」

レレ

「んふ…はあ〜♡」

とと

「思ったとおりオジサンのチンポめっちゃデカくやばいんだけどWWキスしながらチンポ弄られるのってそんなに気持ちよかった？W」

レレ

レレ

「愛依ちゃんの唇ぶるんぶるんだし手もすべすべですごく気持ちいい♡」

「じゃあその口でもっとパツキバキに勃起させて気持ちよくしてあげる♡」



「はあくはあく……
愛依ちゃんのフエラすごく
気持ちよかったよ♡」

「ほろひふはとおほったしゃん！
（もう死ぬかと思つたじゃん！）」

「ごめん！気持ちよすぎてついつい……
こんな射精したのは初めてかも♡」

ぬちああ



「んぐ……
おひやんのしえいえひ
しゅごひふりつふり♡
（ん！オジサンの精液
すごいプリップリ♡）」

ビキキキ



「んっ……くちゅくちゅ……♡」

グキキ

グキキ



「んっ……ふっ……♡
（うん！おじさん♡）」

ゴクゴク

ぽん



「す…は…す…は…♡」

「ちよつとオジサン匂い嗅ぎすぎっしょW」

「だって愛依ちゃんから
すごくいい匂いするからさ♡」

「えーそんないい匂いする？W
ていうかむしろ汗臭くない？W」

「香水と汗が混じった
濃厚な良い匂いだよ♡」

「うわらちよつとオジサン
変態っばいんですけどW」

ん

おにやう

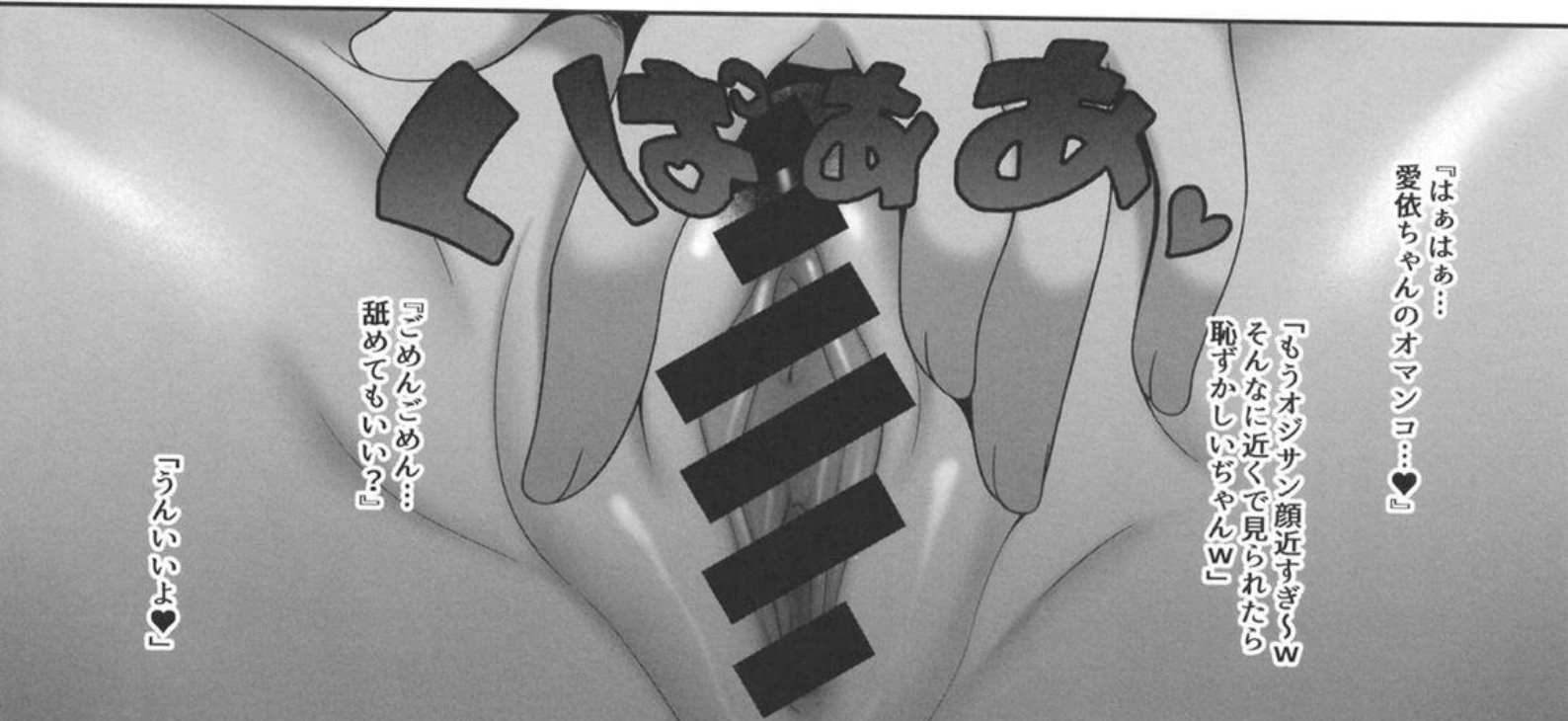


「そんなことないって普通だよ普通」

「それにさつきからなんかお尻に
硬いモノがあたってるんですけどW」

「愛依ちゃんの匂い嗅ぎながら
おっぱい揉んでたり誰だつて
すぐ復活しちゃうよ」

「てかさんなにウチの匂い好きなら…
オジサンもつと濃厚な匂い嗅ぐ？W」



「はあはあ…
愛依ちゃんのおマンコ…♡」

「もうオジサン顔近すぎW
そんなに近くで見られたら
恥ずかしいちゃんW」

「ごめんごめん…
舐めてもいい？」

「うんいいよ♡」

ん

ん



「んっ...ぶっ...
愛依ちゃんのオマンコ
すごく美味しいよ♡」

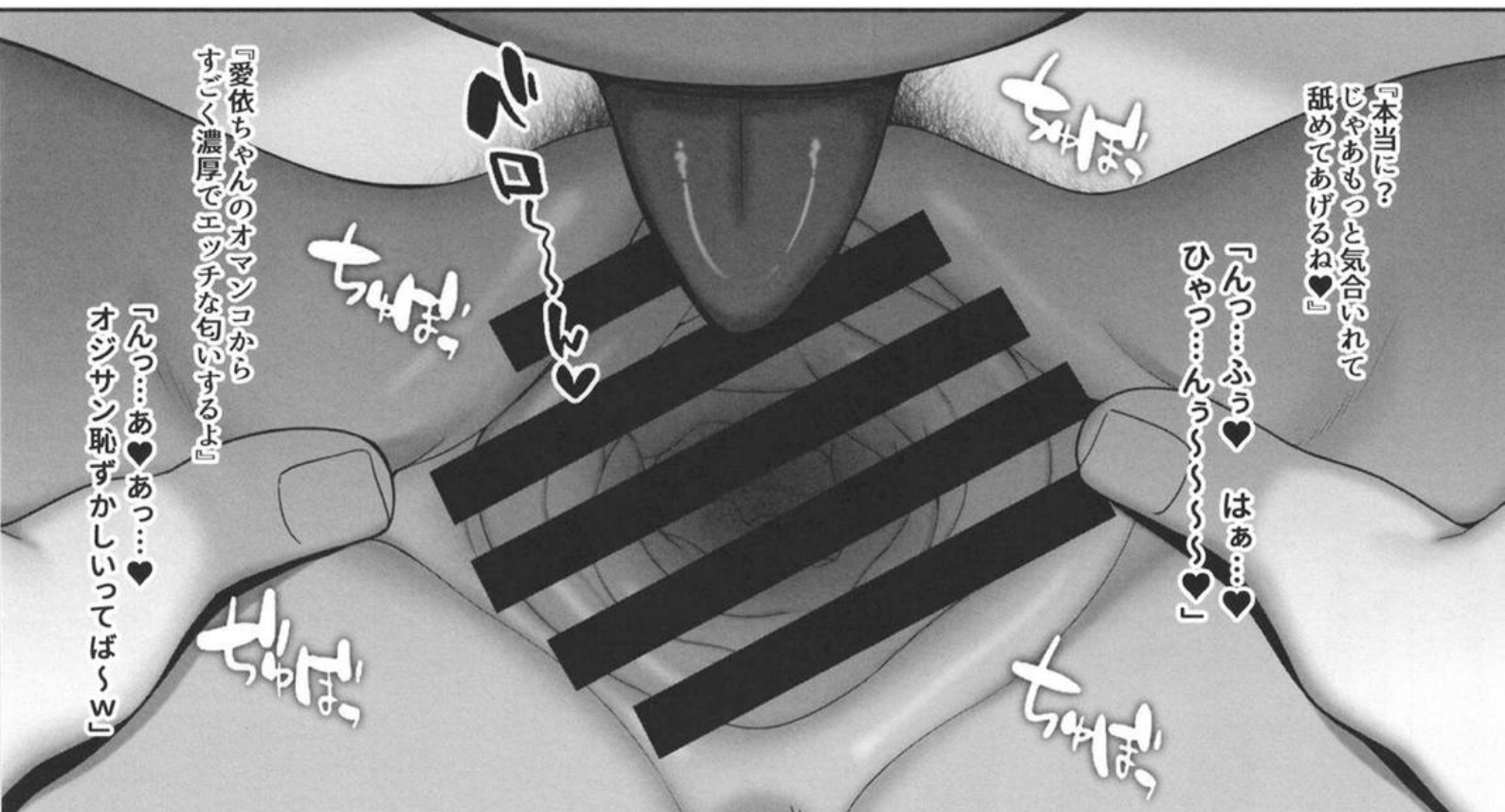
「あっ...♡
オジサンの舐め方
気持ちいいかも♡」



「んっ...くちゅ...くりゅりゅ...
ずちゅちゅちゅ...♡」

「も...オジサン犬みたい♡
そんなにウチのオマンコ美味しい？w」

「んっ...♡
んっ...♡
んっ...♡



「本当に？
じゃあもつと気合入れて
舐めてあげるね♡」

「んっ...ふう♡ はあ...♡
ひゃっ...んう...♡」

「愛依ちゃんのオマンコから
すごく濃厚でエッチな匂いするよ」

「んっ...あ♡あっ...♡
オジサン恥ずかしいってばw」

「んっ...♡
んっ...♡
んっ...♡

「それじゃ挿れるね♡」

「愛依ちゃんコンドームは？」

「今日は大丈夫な日だから平気だよ♡
ナマでこのデカイチンポで味わってみたいし♡」

「いやでも…」

「オジサンもしかして
ナマでやるのイヤなの？W」

「そんなことないです！
JKとナマでセックスしたいです!!」

「あははマジでウケるW
オジサンの顔必死すぎW」

「それじゃオジサンの
援交童貞いただきま〜す♡」

「ナマのチンポがJKの…
愛依ちゃんのマンコに…」

「んはあ〜…♡
まだ入り口なのにこのチンポすご〜W」

はあ〜…
マジでこのチンポやっばい…
挿れただけで気持ちいい♡

一番奥のところまで
オジサンのチンポきた〜♡

「あつ♡はあ…♡はああ♡
オジサンのチンポやばすぎ♡」

「愛依ちゃんのオマンコもすごい締めまりで…
さつき出したばかりなのにすぐイッちやいそう」

「ふっ…くう…はああ♡
見てオジサンの極太チンポ…
奥の深いとこまで届いてるよ♡」



「あっ……あひゃ……♡
は♡は♡♡んん♡
はあああああ♡」

今まで知らなかった気持ちいいところ
オジサンのチンポで刺激されてる……ッ

「愛依ちゃんのJKオマンコが
チンポに絡みついて離さなはよ……ン」



「んっ……ちゅら……♡
んっ……んふう♡はあ♡♡」

「くちゅ……ちゅちゅ……おはあ……
愛依ちゃん……もう……イキそうッ」

「んっ……んっ……♡
ちゅっ……ちゅっ……中……中……」

「んあ……だつて……
めっちゃ気持ちいいんだもん♡
中をグイグイ突き上げてやば……ッ♡」

「んっ……んっ……♡
んっ……んっ……♡
んっ……んっ……♡

「こんなに射精したこと
今までないよ…♡」

「うわあ…ホントだW
すごい量の精液出てるW
危険日なら即妊娠だねW」

「ずっとご無沙汰で
愛依ちゃんのオマンコが
とても気持ちいいから…♡」

ぬるぬる

「ウチもメツチャ
気持ち良かったよ♡
オジサンのチンポ
気に入っちゃった♡」

「あつ…愛依ちゃんなにを…っ」

「待ってさすがに二回目は…」

「オジサンのチンポ
気持ちいいんだもん♡
もういつかいシよ♡」

「大丈夫ウチに任せて♡
チンポをきれいに舐め取って
タマを揉みほぐして」

「愛依ちゃん…あつ♡」

「次に乳首を舐めながら
チンポをこねくり回して」

「あ…う…あ♡」

あつ

あつ

あつ

「オジサンのチンポ……ッ
んっ……最高……ッ
もっとうちのマン」を
チンポで掻き回してえ♡」

『くぅ……
オマンコの締まりが
一段とキツくなつて……』

「はっ♡はっ♡はっ♡はっ♡はっ♡
んっ♡んっ♡んっ♡……んっ♡んっ♡
は……んあああ……ッ♡」

『愛依ちゃん……ッ
もっ……イキを……ッ』

『また中に出して
いらんだよね……ッ!!』

「んっ……うん……いっしょ♡
オジサンの熱いザーダニを
うちの中にドビュ……ッで
いっばい出してえ♡♡♡」

おん

おん

おん

おん

おん



「はあ〜…はあ〜…♥
二回なの(3)すんじ量W」

「さすがにもうカラッポだよ…」

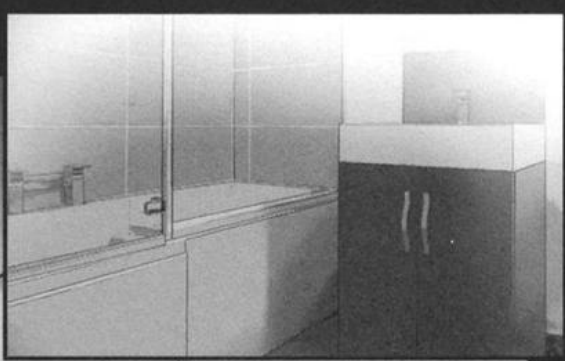
「オジサンお疲れ〜♥
とても気持ちよかったよ♥」

「ねえ…こっちにきて♥
きれいにしてあげる♥」

「んっ…ちゅっ♥
れちよぬちゅっ〜♥
あつ…また反応してるW」

「愛依ちゃんもう勘弁して…」

「えっ…しようがないなあW
オジサン一緒にお風呂入る♥」



「はいこれウチの直アド」

「え…?」

「オジサンのこと気に入っちゃった♥
今度からはタダマンでいいからさあ
やりたくなったら呼び出してよね♥」

「ジョン…」



【誌名】愛依ちゃんのアルバイト
【著者】柊はじめ
【発行元】Re:Cre@tors
【発行日】2019年8月12日
【連絡先】recreators1990@gmail.com
【印刷所】プリンティングイン株式会社
pixiv FACTORY BOOKS

愛依ちゃんの
アルバイト